

# 先進校現地視察研修 報告

## 視察地

- (1) みやぎ生協 東日本大震災学習・資料館 (仙台市泉区)
- (2) 仙台市立荒浜小学校及び周辺 (仙台市若草区)
- (3) 南三陸町内浸水エリア (南三陸町志津川地区)
- (4) 南三陸町立歌津中学校 (南三陸町歌津地区)

岩城小学校・岩城中学校

# 視察の行程

8/26(月)

広島空港➡➡➡➡●仙台空港(名取市)

仙台空港⇨⇨⇨●仙台駅(青葉区)

⇨⇨●東日本大震災学習資料館(泉区)

⇨⇨●荒浜地区(若草区)

8/27(火)

仙台駅バスセンター.....●志津川(南三陸町)

●南三陸町観光協会~~町内(旧志津川町を中心)

南三陸町観光協会~~●歌津中(旧歌津町)

8/28(水)

仙台駅⇨⇨⇨仙台空港

仙台空港➡➡➡➡広島空港



はじめに

・東日本大震災から 約8年半

○災害規模の巨大さ ← 未だ復興半ば

○地域住民の強さ・人間力



# 東日本大震災学習資料室



フロアにぎっしり掲示された写真資料

# 仙台市荒浜地区 (震災遺構①仙台市立荒浜小)



# (震災遺構② 荒浜地区住宅基礎)



**3 大地を削る津波②**  
Tsunami Eroded Land ②

津波がビル風のように建物の側面を襲う  
津波による浸食のイメージ

震災発生直後(2011年3月11日)

震災発生直後(2011年3月11日)

震災発生直後(2011年3月11日)

震災発生直後(2011年3月11日)

**5 荒浜の暮らし**

震災発生直後(2011年3月11日)

震災発生直後(2011年3月11日)

震災発生直後(2011年3月11日)

# 南三陸町(芳賀さんの講話)



3階建ての屋上2mまで覆われた南三陸町防災対策庁舎はこの位置

海岸近くに位置する公立志津川病院  
4階建ての東棟(左)と隣接する5階建ての西棟(右)  
2011年9月3日撮影

南三陸町の防災対策庁舎を襲う津波の画像



2 午後3時29分ごろ 南三陸町の防災対策庁舎(右上)の周辺に押し寄せる津波  
午後3時29分ごろ、職員30人ほどが屋上に避難した。津波は2階まで達していた。



その6分後、防災対策庁舎は屋上の2m上まで津波に覆われた



津波が引くと、屋上で助かった職員は10人だけだったのである。

# 南三陸さんさん商店街



佐藤信一 常設写真展示館  
**南三陸の記憶**  
第43回講談社出版文化賞「写真賞」受賞  
※入館料 一般：¥300 高校・中学生：¥200 小学生以下：無料  
開館時間：10:00～17:00 (最終入場16:30) 定休日：火曜日

# 南三陸町 町内視察(戸倉地区)



造成工事の様子



眼下を広がる志津川湾を前に



ここまで浸水した戸倉公民館

# 先進校視察(南三陸町立歌津中学校)

歌津中学校



伊里前小学校



# 先進校視察(南三陸町立歌津中学校)



さまざまな訓練を通して  
防災に関するスキルを  
↓  
このスキルが使えるか試す場として  
「避難所運営訓練」



# 南三陸町全体での取組

## 南三陸町観光協会「防災キャンプ」企画



災害時の避難所運営を疑似体験する参加者ら  
—南三陸町歌津の「平成の森」

南三陸町観光協会は災害時の避難所を体験できる防災・減災プログラム「防災キャンプそなえ」を提供している。東日本大震災で町民が避難した場所、災害1日目を想定した宿泊体験で教訓を学んでもらう。

プログラムは1泊2日で参加料1万8000円(税別)。今月3日のプログラムには、建設・不動産開発業「レンドリス・ジャパン」(東京)の社員ら25人が参加した。海の近くで地震に見舞われ、津波警報が発令された想定で、歌津地区のスポーツ施設「平成の森」に徒歩で逃げた。

避難所立ち上げの訓練は、参加者が避難者役と運営者側に分かれて実施。受け付けは家族を捜す人や泣きやまない子ども、目の不自由な人を演じる避難者役で混み合う状況になっ

## 電気・ガス・水道使わず 宿泊は災害1日目想定

また、震災時と同様の不自由な環境に身を置くため、電気、ガス、水道を使わない。くんだ水でトイレを済ませたり、備蓄品の食事で新聞紙とラップで皿を作ったりした。プログラムの最後には地元の語り部から震災当時の様子を聞き取った。

参加した吉田芳徳さん(42)は「緊急時だからこそコミュニケーションを取ることが大切だと分かった。震災の風化を防ぐためにもプログラムは有効だ」と感想を語った。

防災キャンプは交流人口を増やす仕組みの一つとして位置付け、昨年10月から始めた。観光協会の及川和人さん(35)は「実際に使った避難所で災害1日目の様子を体験してもらい、今後の災害に備えてほしい」と話している。

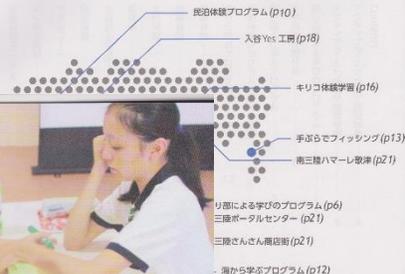
## 避難所体験、教訓学んで

南三陸町観光協会は災害時の避難所を体験できる防災・減災プログラム「防災キャンプそなえ」を提供している。東日本大震災で町民が避難した場所、災害1日目を想定した宿泊体験で教訓を学んでもらう。

## MINAMISANRIKU TOURISM

南三陸町体験学習プログラム

第6版



PROGRAM 1  
南三陸  
アクティブラーニング

### テーマ① アクティ

#### プログラムの概要

「生きる力」を育むには？  
現場視察(フィールドワーク)と自  
ら自ら防災、減災に取り組む意識を高め  
る。当町へ移住し地域に根ざした活動を  
芽吹かせ、主体的な取組の契機を

主体的な学び



PROGRAM 2

#### 語り部による 学びのプログラム

#### プログラムの概要

2011年3月11日の東日本大震災によって失われたものは数多くあります。しかし、多くを失ってしまったからこそ、学んだこと、大切だと気づいたことがたくさんあります。自然災害の経験、命の大切さや家族との繋がりを、そして自分の地域の魅力や価値に

に出来ること。この震災を風化させず次の世代に安心で安全な  
の震災から学んだこと、教訓になったことをお伝えします。ゼ



PROGRAM 5  
民泊体験  
プログラム

#### プログラムの概要

この地域のありのままの生活を感じてもらい  
農林漁業の一次産業者や民宿を営む方、高工関係  
ります。2011年の東日本大震災により家族、住  
身をもって知りました。  
前を向いて生きる町民との交流は、子どもも育  
んでいこう。

命や家族の



PROGRAM 6

#### 海から学ぶ プログラム

#### プログラムの概要

町民の命や家族を守るために、海でより安全な避難所を確保し、避難所に入らな  
いように努めます。海の中では避難所を確保し、体験も受け入れらる  
ようになります。  
プログラムでは、実際に使われている避難所に参加します。避難所の役割  
や内の子を学ぶしながら、防災意識の向上を図ります。

豊かな



# おわりに

# 防災教育を通して

- ・東日本大震災から 約8年半
- ・西日本豪雨災害から 1年余
- ・今年の台風15号・19号の被害
- ・南海トラフ巨大地震 等 に備えて

生きていく力

家族・地域の一員としての  
責任を果たす

自分の命を  
守る